

(発行所)
東京都東大和市南街2-17-16
パピルス会館 〒207-0014
TEL 042(566)2950(代)
FAX 042(566)2949
〈郵便振替〉00160-9-77459
「かんばろう、日本!」国民協議会
ゆうちょう銀行 019店 当座0077459

1部 300円
定期購読 半年2,000円
一年3,500円

今号の紙面	
2-3面	「灯照隅(地方議員のコラム) インタビュー」
4-5面	副大臣として 大島敦衆院議員・前内閣府副大臣
6-7面	自民党改革は新しいステージへ 世耕弘成参院議員・幹事長代理
国際政治の構造転換と日本外交	
7-10面	インタビュー 中西寛・京大教授/村田克爾・同志社大教授
11-14面	囲碁会「日本外交への視座」 大野元裕参院議員

FTAは相上にも上っておらず、TPPへの参加にも暗雲が漂い始めているありさまだ。

日本も韓国も、国際秩序の形成を方向付けるような大国(覇権国)ではない。求められてゐるのは、国際的な変化にいかに対応するか、という知恵である。「世界第二の経済大国」幻想では、その知恵は逆さに振っても出せないことがはっきりした。

国際秩序を支える公共財の安定には、覇権大国の存在が不可欠だ(大野参院議員「囲碁会」参照)。第二次大戦後長らく、冷戦後に至っても、そうした国際公共財を支えてきた超大国アメリカが、いよいよその座を降りつつある(超大国から大国へ)。それに替わる存在が不在であることが、現在の變動の大きな特徴でもある。だからこそ「〇〇についていけば間違いない」といった思考では、変化に対応する知恵は出ない。

アジアからの観光客が具体的に見える地域経済では「反中・嫌中・反韓・嫌韓で、メシが食えるのか!?!」とどうこういひの(アジアの成長と運動する)生活実感は、すでに前提になってゐる。「変化にいかに対応するか」という知恵は、どうしようもないので、出ないのだ。

《教訓 その2》 国際秩序の大変動期に「内政ごっこ」に明け暮れる愚を繰り返すな

国際秩序の大変動から強いられる変化にいかに対応するか、が問われているときに、これを「内政ごっこ」「政争の具」に転

じる愚を繰り返してはならない。

FTAをはじめとする自由貿易協定が急増している背景には、〇六年のWTOドーハ・ラウンドの決裂・凍結がある。つまり経済貿易の世界でのルールが大きく転換したのだ。こうした変化にいかに対応するか、が問われているときに、国内の個別利害にとらわれれば、「水兵の失業はしのびない」といって戦艦大和をはじめ貴重な人材と資源を水泡に帰した戦前の愚の再現となる。(第二次大戦では空軍への戦略転換が大きく進んだが、旧帝国海軍はそれ以前からの巨艦巨砲主義を転換できなかった。その理由として「水兵の失業はしのびなかった」と戦後、参謀が述べている。)

世界大戦に匹敵する国際秩序の大再編期のただ中であつて、最悪の道を断つ知恵を

中西寛・京大大学教授は、現在の国際秩序の大変動を「世界大戦に匹敵するような」ものだと指摘する。「現在の世界政治は権力政治レベルでの多極化と、経済システム・レベルでの金融主導のグローバル市場経済成長モデルの限界の露呈という二つのレベルでの大規模な変化が同時に進行しているところに特徴がある。〜中略〜歴史的に見れば、大国間秩序の大規模な再編成と世界的政治経済システムの変容が同時に起きるような變動は、主要国間の大規模な戦争

さらにいえば「水兵の失業」の背後には、大量の陸軍兵士とその出身地の困窮があっただろう。それをいわば逆手にとった、満州利権や軍をはじめとする既得権益のための「内政ごっこ」こそが、変化に対応するチャンスをとことごとく潰していったといえる。

WTOからFTAへ、というゲームのルールの転換にいかに対応するか、というところから個別利害(例えば農業)への対策を扱うのか、それとも「内政ごっこ」「政争の具」として扱うのか。TPPの議論では、ここが試されている。「農業への打撃」を理由にする人々が言っているのは、「農業の育成・強化」なのか、それとも「票田としての農家の保護」なのか。ゲームのルールの転換に対応できなければ、失うのは市場のチャンスだけではない。ふたたび次世代を「失われた世代」とする愚を繰り返すのか。

(ゲームのルールの転換は「低炭素経済」という形でも展開しているが、それは別の機会に)。

世界大戦に匹敵する国際秩序の大再編期のただ中であつて、最悪の道を断つ知恵を

を経て実現されることが一般的であった。〜中略〜しかし現代においては、世界規模の相互依存が浸透しているので、大国間の戦争が起きる可能性は不可能とは言えないまでも極めて低くなった。〜中略〜現在の世界システムの變動は経済メカニズムを通じて起きる度合いが高いであろう。二〇〇八年九月の「リーマン・ショック」を引き起こしたアメリカの金融危機は、〜中略〜危機への対応力という「テスト」を通じて国際秩序の再編成を促している。この「テスト

ト」は、世界において大国ないし主要国と見なされる国家の再編成と、世界の諸問題に対応するガバナンス・メカニズムの姿容という二つの経路を通じて国際システムの変化を促している(グローバル多極秩序への移行と日本外交の課題「経済産業研究所 ディスカッションペーパー」)

二度の大戦を経て覇権国の地位はイギリスからアメリカへ移行したが、今回の大再編においてはそう簡単に、アメリカに替わる超大国は見当たらない。そのことがこの再編期の複雑さ、不安定さを増大させている。同時に台頭しつつある中国が、この国際秩序の大再編のなかで「責任ある大国」となるのか、それとも混乱・攪乱要因となるのか、大きなポイントである(後者の要因をいかに修正、セーブしていくかというアプローチ)。

東アジアはこうした變動の焦点であり、二〇一二年はこの地域に関わる諸国でリーダーがいつせいに交代することになる。中国では胡锦涛体制が代わり、台湾では総統選、ロシアも韓国もアメリカも大統領選である。日本は衆議院が満期までなら、一三年には衆参の選挙となる。ここで米中を軸としつつ多極化した東アジア国際秩序の「次の枠組み」、おまびそのなかでの各国の位置取りの目安が見えてくる。各国の内政も、そこにむけたせめぎあいと無縁ではない。

重ねて言うが、日本はこうした国際秩序の枠組みを方向付けるような大国ではない。方向付けられた変化に対して、「いかに対応するか」という立ち位置である。同時に二十一世紀初頭の国際関係においては、超大国の行動の細部にいろいろな国がチヨカイを出し、軌道修正を図るソフトバランスングという関

◆北九州「日本再生」読者会(会費 500円)
11月16日(火)午後6時30分より 小倉商工会館

◆大阪「日本再生」読者会(会費 800円)
11月5日(金)午後7時より 大阪研修センター・十三

◆京都・青年学生読者会(会費 無料)
11月16日(火)午後7時より 同志社大学寒梅館

◆関西 拡大読者会(参加費無料)
11月9日(火)午後7時より 山本ひろふみ・京都市会議員事務所

***** 以下は事前のお申し込みが必要です *****

◆第93回東京 戸田代表を囲む会
「内閣府副大臣としての政権交代一年、その総括をどう語るか」
11月8日(月)午後6時30分より
ゲストスピーカー 大塚耕平・参院議員 前内閣府副大臣

□第94回 東京・戸田代表を囲む会
『「経済学っぽい」思考の欠如が、日本をダメにする?』
12月20日(月)午後6時30分より
ゲストスピーカー 諸富徹・京都大学教授

*東京・囲む会は、
「がんばろう、日本!」国民協議会 事務所(市ヶ谷)
会費 同人2000円 購読会員3000円(いずれもお弁当付)

◆戸田代表を囲む会 in 京都(会費 1000円)
11月12日(金)午後6時30分より コーピン京都
小川淳也・衆院議員、隈塚功・京都市議、中小路健吾・京都府議、
上村崇・京都府議、諸富徹・京都大学教授

□2010年望年会 in 東京 12月23日(木・祝)午後4時より
「がんばろう、日本!」国民協議会 事務所(市ヶ谷)
会費 2000円

□2010年望年会 in 京都 12月21日(火) コーピン京都
午後6時より 第一部 講演 会費1000円
村田晃嗣・同志社大学教授
「リーダー総入れ替えの2012年・東アジアをどう展望するか」
午後7時より 第二部 懇親会 会費3500円

■問い合わせ 03-5215-1330

導員の報酬が異常に高いのが特徴です。資格も要らず、任期もなく、推薦で決まる彼らの報酬は一日二時間で七千五百円、六十七名で年間一億三千万円の予算を要します。交通費はないし、いろいろ稽古や研究もするのでと云いますが、それにしても他の非常勤や臨時職員と比較をすれば、高額報酬と言わざるをえません。早急な改定を望みます。

環境破壊を許さない
ごみの減量は3R(リデュース・リユース・リサイクル)の徹底的な実践が必要です。私たちは先進的に実践をしている横浜市に学び、視察を行い、江戸川区に提言してきました。ごみの分別から、マイバッグ運動の推進を行い、江戸川清掃工場や中央防波堤での焼却処理を出来るだけ減少させてきました。

学校の校庭の芝年化や壁面緑化・屋上緑化を推進し、自然にやさしい街づくりを進めています。また、LED製品を公共施設の中で積極的に使用するよう求めてきました。

来期に向けてさらに努力を重ねたいと思います。

1面から続く
わり方もある。
戦前わが国は、こうした国際秩序の変動期に(変化に対応するチャンスをつかんで)「シリ貧か、ド力貧か」という最悪の選択に迫り込まれた。今回は、それだけは避けなければならぬ。「シリ貧か、ド力貧か」という選択に迫り込まれる道を未然に断ち、「変化に対応する知恵」を絞る、その生活実感と生存本能にこそチャンスと決定権を移していかなければならない(担い手の変更)。

このことはまた、台頭する中国が国際秩序の大再編のなかで攪乱要因となることを修正し、「最悪の選択」を避ける条件を準備することにもつながる。台頭しつつある国、しかも近代に入ってから抑えられてきたと考えている大国では、「大国にふさわしく振る舞え」という声が大きくなることは避けられない。問題はそれをナショナリズムで煽り、内政ごっこ道具に使うことだ。対中戦略でも「最悪を避ける」知恵が求められる。

図抜けた覇権大国が国際公共財を提供する、という秩序形成

は多極化した世界では難しい。むしろ多数のプレイヤーがさまざまな連立方程式を組み、与件と変数を入れ替えることを繰り返しながら、何らかの合意なり協調なりが形成されていく、その知恵が不可欠だ。勢力均衡の伝統を持つヨーロッパと異なり、歴史、文化、価値観の相違が大きい東アジアにおいて、相互依存をベースとした調整ないし協調の方向が見えてくるか。これが、この地域のリーダーが総入れ替えを迎える二〇二二年の大きなポイントである。

このなかで、わが国そしてわれわれが、「変化に対応し」、それなりの存在感と経済規模を維持しつつ、「持続可能な社会」として「やっていけるメドが立つのかどうか。ここにむけてこれから約二年間のタイムテーブルを、明確にしていかなければならない。それをクリアする第一歩こそ、「シリ貧か、ド力貧か」という選択に迫り込まれる道を断つ輿論の形成であり、その輿論から永田町を絞り込んでいくことである。

人口減少・少子化というこれまでとはまったく違うステージ

で、財政―経済―社会保障の持続可能性をどう確保していくか、そのために「変化にいかに対応するか」。ここで政党間の共通の前提と争点設定を絞り込めるか。ここで「内政ごっこ」↓政党政治の頓死という愚を繰り返す道を選べることができるか。

すでにアジアの成長を取り込むことは地域経済の生活実感では前提になっている(なっていないところは「依存体質」「ゆでガエル」)。来年の統一地方選においても、二〇二二年を視野にいった視座が求められる。健全な生存本能、生活実感は開かれた市場や競争を前提にしてこそ生まれる。地方政治・自治体経営においても、ここに決定権とチャンスに移していかなければならない(担い手の変更)。

*国際秩序の構造的転換、そのなかでの外交については今号の中西氏、村田氏、大野氏の記事を、あわせて参照されたい。